

2022 年度活動報告

【年間スケジュール】

- 4月 自己開示
- 5月 今年のテーマが「ウェルビーイング」に決定、「ウェルビーイング」に関する文献調査を開始
- 6月 垣見一雅氏（OK バジ）の講演会、質問会を開催
- 9月 予備調査を開始
- 10月 国際調査を開始
- 12月 ゼミ研究報告会
- 1月 野島萌子さん講演会

【最少人数の関ゼミ】



初めて、E301 教室に足を踏み入れた時、その教室には自分以外に誰もいませんでした。「教室を間違えた。」そう思い、改めて確認しようとする、足音が聞こえてきました。

ゼミ生なのかも分からず、「ここ関ゼミの教室ですよ？」と食い気味で聞いてみた所、「ですよ！」ととても元気な返事が返ってきました。椅子に座っていいかも曖昧で、立ちながら話をしていると、1人。そして、1人とゼミ生が教室に増えてきました。

良かった、間違えてなかった。安心してしていると、関先生の登場。ゼミ生の1人が、「今年のゼミ生は何人ですか？」と遅刻しているのであろうメンバーを気遣った発言をすると、関先生が一言、

「これで全員ですよ。」

場が凍るとは正にこのことだと思った。そう、今年の関ゼミは異例のゼミ生4人に関先生の5人で行われるのだ。

【テーマが「ウェルビーイング」になった理由】



過去最小人数で幕を開けた関ゼミは、どの方向に向かうのか路頭に迷っていました。

そんな中、あるゼミ生が「何か大きなイベントを企画したい!」と言い出しました。その言葉に希望を見出した私たちは、早速イベント開催に向けて歩き始めることを決意しました。

しかし、テーマがまだ決まっていません。これは、歩くことが決まってもどこに向かえばいいのか分からないという状態でした。この時に、去年のSDGs講演会で出てきた「ウェルビーイング」というワードが取り上げられます。

「ウェルビーイング」とは、簡単に言えば「長期的な幸福」のことを指し、短期的で、一時的な「幸福度」とはまた違うものです。だからこそ、定義そのものが存在せず、個人によって大きく変わるもの、それが「ウェルビーイング」です。

私たちはこの「ウェルビーイング」についてのイベントをするにあたって、正しく理解するために、文献調査を行いました。しかし、文献調査をすればする程、「ウェルビーイング」というものが分からなくなっていきました。

【垣見一雅さんの講演会、質問会】



調べているだけではダメだ。そう感じ、実際に「ウェルビーイング」を達成している方にお話を聞こうということになりました。そこで、関先生がご紹介して下さったのが、垣見一雅さん（OKバジ）です。

ネパールでボランティア活動をされている垣見さんのお話は、「ウェルビーイング」という観点だけでなく、人生の勉強にもなる、とても貴重な講演会でした。

【「ウェルビーイング」とは？】



これらの活動を通じて、「ウェルビーイング」により興味が湧いていきました。その後、本学のゼミ研究報告会で「ウェルビーイング」について発表をするため、アジア圏内の国を対象に、国際調査を行いました。得られた結果を元に、前期の文献調査を踏まえて、発表を行いました。この発表とスライドはホームページからご覧頂けます。

簡単に、こちらで結論だけ述べさせて頂くと、「ウェルビーイング」は個人によって違うということです。当たり前かもしれませんが、どんなに研究しても「これが『ウェルビーイング』だ!」というものは見つけることが出来ませんでした。だからこそ、自分の幸せは自分で見つけるということが大切なのだということに改めて気付かされました。

【最後に】

今年の間ゼミは異例だと思います。私は今までの間ゼミがどうだったのかわかりませんが、間ゼミの過去の活動や、その裏にある意図を学んでいくにつれてそう思うようになりました。

そして、何と言っても人数が少ない！意図せずとも、ソーシャルディスタンスが保てる少人数でした。だからこそ、1人1人にフォーカスしたゼミだったような気がします。これをOBやOGの方にお話しすると、皆さん「贅沢だね。」と口を揃えておっしゃっていました。

もしも来年度、新規生が入らなかった場合は3人体制の間ゼミになります。さすがにこれは贅沢すぎると思います。恐らく、はたから見たら授業だとは見えないでしょう。だからこそ、来年は多くの新規生に入って欲しいと思っています。

これは、わざとらしく聞こえるかもしれませんが、私は間ゼミに入って大きく変わりました。これは、自分自身が変わったのではなく、本当の自分を見つけ、本来の姿を解放できるようになったということです。

間ゼミの活動はハードですが、本気で取り組むと本来の自分が見えてきます。みなさん

も関ゼミで本気でぶつかってみて、本来の自分を見つけませんか？

【ページ作成者】

- ・戸崎 瞭（経済学部）
- ・現 関ゼミ生（2年）

